



横浜陶芸友の会だより

第184号
令和5年
3月6日発行

横浜陶芸友の会 会長 高橋 光男

新型コロナウイルス感染者が

最初に発症したとされる日から

3年を過ぎ最近では患者数の減少が

やっと見えてきました。感染症の蔓延により

仲間と集う機会が失われ、今まで培ってきた

ことの継続することが難しくなりました。

また、外出を控えることにより心身の活力

の低下が懸念されます。感染症予防に十分に

留意しながら、友の会も少しずつ活動の機会

を増やしていきます。

このような時期だからこそ仲間同士声かけ

あい、知恵を出し合い、繋がりを途絶えさせ

ないことで、会員一人ひとりが希望をもって

この難局を乗り越えるよう、なお一層の協力

をお願いいたします。

役員会の報告 総務部より

2月19日(日) 12時30分より

杉田地区センターにおいて

会長・副会長・各役員8名で話し合いました。

議題は「第43回作品展報告」「各部報告」

「会計報告」「その他」でした。

○事業部 第43回「作品展」報告

○専修部 秋期焼成会の在り方

○広報部 広報としての位置づけ

○総務部 部員減による活動

○その他 ・組織の見直し・人事・会計

など、今後の活動について反省を踏まえ
多岐にわたり話し合われました。

第四十三回「作品展」事業報告

(会期)令和5年1月10日(火)～15日(日)

(会場)「かなつくホール」3階ギャラリーA

(入場者数) 230名

※「かなつくホール」に提出した数字です

(出展者数) 13名 (前回 15名)

(出展作品数) 160点 (前回205点)

※(専修部・特設コーナーの数を含む)

(特設コーナー) 課題「マグカップ」10点

(来場者名簿 記入者数)

106名 (前回105名)

(その他)

※昨年10月に亡くなられた島本登俊さんの

遺作を展示いたしました。

○会員数減に伴い出展者数も減になり、賛助
会費(出展料)も今後減る事が予想されます。
「作品展」を開催するための賛助(応援)
ですので、ご協力よろしくお願いいたします。
来年度は現状維持で活動していきます。

専修部より

・現在「技能文化会館の窯」を借りて焼成し
ていますが、前回報告の写真のように作品数
が窯の半分に満たないこともあります。
作品数が少ない時には「技文の窯」以外で
の焼成も検討していきます。

広報部より

・現在、部員は一名です。これでは部として
は成り立ちません。そのため、会長、副会長、
部長に会報のチェックをお願いしています。
組織としての位置づけを来年度の「総会」
で提案していただく予定です。

総務部より

・総務部も来年度は部員が二名減の予定です。
やはり活動が困難になりそうです。
活動内容を検討し、少ない人数でも活動が
できるように組織や活動内容を変える必要に
迫られています。

・次回の役員会で組織・活動内容などの検討
をし、「総会」に提案していきたいと思えます。
☆是非皆様、次回の役員会にご参加ください。
※「総会」は5月中旬を予定しています。※



テーマは「紅（緋色）」

- ①「志野花器」②「志野角皿」 もぐさ土 ガス窯焼成 志野釉
- ③「御本手粉引中鉢」 ブレンド土 ガス窯焼成 透明釉・柿釉
- ④「御本手粉引中鉢」 ブレンド土 ガス窯焼成 透明釉・青織部釉
- ⑤「御本手粉引中鉢」 ブレンド土 ガス窯焼成 透明釉・トルコマット釉
- ⑥「御本手粉引中鉢」 ブレンド土 ガス窯焼成 透明釉・るりマット釉
- ⑦「織部角皿」 もぐさ土 ガス窯焼成 織部釉・緋色釉
- ⑧「織部角皿」 大道荒土 ガス窯焼成 織部釉
- ⑨「中鉢」⑩「湯呑」 もぐさ土 ガス窯焼成 オリジナル釉
- ⑪「中鉢」 もぐさ土 ガス窯焼成 チタン窯変釉
- ⑫「花器」 古信楽土 ガス窯焼成 チタン窯変釉
- ⑬「志野湯呑・ぐい呑み」 もぐさ土 ガス窯焼成 志野釉
- ⑭「片口」 特設コーナー 古信楽土 穴窯焼成

「2021年・2022年度決算・2023年度予算」については、次回役員会で報告いたします。
 ＊＊☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

これから紹介するのは昨年度「第42回作品展」で掲載できなかったものです。

「第42回の作品」

井上明

次回「役員会」は4月15日（土）12時〜
 杉田地区センター会議室 A で行います

会計より



「緋色」の火間

をを出すように大道土だけでなく赤い土をブレンドして緋色が出るようにしてある。
 釉薬と撥水剤での緋色の比較をしたもの。

テーマの「こうよう」も「紅葉」「黄葉」があるので、器に近い色の葉を持つてきました。



「紅葉」のイメージで釉を作りました

・焼き物ではないのですが、添えてある葉について伺いました。やはり焼き物だと思った人に質問されたようです。
 ・この葉は、玄關の所にある「ハナズオウ」というピンクの花が咲く木の葉で



「湯呑」も同様に下地に「紅呉須」と「弁柄」を塗り志野釉をかけてピンクの色を出している。



この皿は下地に「紅呉須」と「弁柄」を塗り「志野」を掛けたもの。色の違いを見せている。

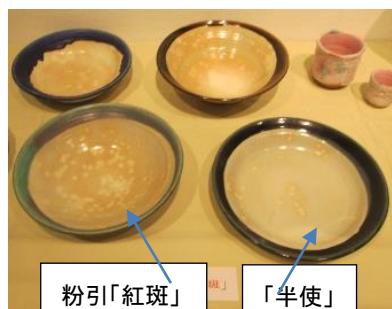


チタン窯変釉

三回このマットが出たが四回目は艶が出た別物になった。底にたまっていた釉薬をきれいに全部溶かしたら、変わってしまった。

この釉薬は全部自作ではなく買った「白窯変釉」が面白くないのでチタンを混ぜてみた。

「御本手」は窯の焚き方で色が出てくる。「紅斑」は赤い中に白い斑点が出てくる。温度は950℃〜1180℃まで還元をかけ、それから先は酸化に戻す。「半使（はんす）は白い中に赤い斑点が出る。これは、逆に酸化で焼き1180℃から上を還元で焼く。焼き方で色の出かたが変わってくる。



粉引「紅斑」

「半使」

「紅斑」を出すには、もぐさ土に赤土を混ぜないと出てこない。普段はそれに粉引を掛けて縁に弁柄を塗るのだが今回は縁の補強を兼ね透明釉を掛けた上に色釉を掛けてある。

「第 42 回の作品」

鈴木貴久



・この「お預け徳利」の模様は、白い粘土に色呉須を混ぜ作ってある。
 緑っぽい色のもある。
 今年の課題を「粘土による色化粧土」にしたので色々試してみた。



- ①「鉄絵泥彩鉢」(第 56 回神奈川県展入選)
 美濃赤 粘土による色化粧土
 黒マット釉(黒天目釉にクロム 3%配合)
- ②「昇(ショウ)」 益子赤 錆黒(マンガン+黄土+陶石)
 土台はポリエステル
- ③「お預け徳利 2065」 再生ミックス粘土
 粘土による色化粧土 上部のみ石灰透明霧吹き

(錆黒の釉薬は?)
 ・黄土にマンガンを加え、それだけだと剥離しやすいので粘りを出すために陶石を 10% 位加えてあります。陶石は磁器土と同じであり、色の変化が出ない。

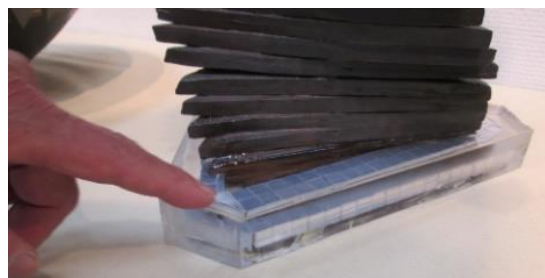
県展入選の「鉄絵泥彩鉢」について伺いました。
 (県展入選のこの作品の狙いは?)
 ・泥で絵具を作りたいと色々試行錯誤していったんです。この白い線の所は、塗ってないようだが一度塗って削り落としてあります。
 手順としては素焼きして、この下の△のが先にベタで塗って、回転させて削り次の△をマスキングして塗って、その上に撥水剤で線を描き、流し掛けで釉薬をかけた。今撥水剤も色んな種類があつて、すごく強い撥水剤があるんで、こういうことが可能になった。昔の撥水剤だと弱いんで、なかなかこういうシャープな線が出ない。



①「鉄絵泥彩鉢」
(第 56 回神奈川県展入選)



(②の曲線の作り方は?)
 ・上から見て三点の距離が同じくらいの所に貼っていく。三角形を作ったら端から 5mm の所に 3カ所傷をつけ上から合わせていく。一日に五枚くらい貼り合わせていった。五十枚くらい貼り合わせてある。



(②の土台はどうやって作ったか?)

ベニヤで形を作り漏れないように周りを囲み、その上にプラスチックの薄いのを敷き、常温で液体のポリエステルに硬化剤を入れ 5 分くらいかき混ぜると固まってくる。それを注ぎ入れ 24 時間経てば大体固くなる。中の銀色はミラーなんだけど、反射を狙って入れてみたけどあまり効果がなかった。



- ①「八角皿」(7 点) 信楽赤土 電気窯 白化粧土 糠白釉
- ②「中皿」(スリップウェア) 古美山土 電気窯 白・青・紫化粧土
- ③「コーヒーカップ」(5 点) 信楽白土 糠白釉 鬼板
- ④「湯呑み」(モカウェア) (5 点) 古美山土 電気窯 白化粧土 京呉須
- ⑤「片口」 特設コーナー

「第 42 回の作品」

吉川 勝

※が樹氷のように広がり模様ができる。
ユウチチューブを参考にしました。



この作品は「モカウェア」の湯呑で、ドロドロの白化粧土を掛けたらすぐ「ニコチン」で溶いた「呉須」を垂らすと白化粧土の上を流れた呉須

- ①ドロドロの白化粧土を皿にたつぷり入れロクロを回す。白化粧土が全体に掛かる。
- ②青化粧土を中心に置くように垂らし、その外側に紫化粧土を同じように置き、ロクロを回す。青と紫の化粧土が白化粧土の上で滑るように広がる。(下の作品は、手が滑って青化粧土が多く掛かってしまった)
- ③ロクロの回転は速いほうがよく、作品は生掛けの方がよい。



コロナ収束を願い「疫病退散」の妖怪「アマビエ」と仲間たちを土笛で作りました。



①「アマビエ」と仲間達(土笛)

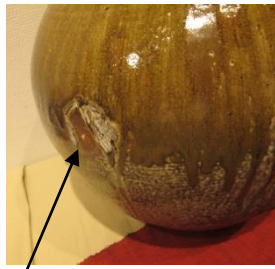
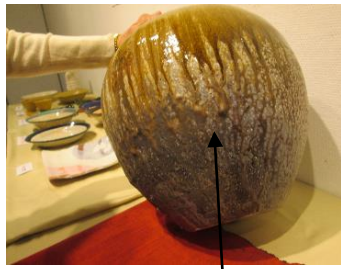


- ①「アマビエ」と仲間達(土笛 4 点)
- ②「黄瀬戸皿 4 点」 ③干支(トラ)
- ④コーヒーカップ(3 点) ⑤片口(2 点)
- ⑥フクロウの箸置き(4 点)とトロロ(石膏型)

「第 42 回の作品」

鍋島弘義

「第42回の作品」
鈴木 和子



この「大壺」は一度目の焼きでは、あまり灰が掛からなかったもので「二度焼」しました。この貝跡は倒したものではありません、壁にあたるように付けたものです。裏側もとてもよく色が出ていて、紫色が出るのも珍しい。窯出しの時、1/3位、灰に埋まっています。

- ①「大壺」 信楽荒目 穴窯焼成 自然釉
- ②「手付片口鉢」 信楽荒目 穴窯焼成 自然釉
- ③「ぐい呑み」(5点) 信楽荒目 穴窯焼成 自然釉
- ④「茶入金付木の葉天目」 信楽赤 穴窯焼成 自然釉
- ⑤「茶入金付」 信楽赤 穴窯焼成 自然釉
- ⑥「茶入」 信楽 穴窯焼成 自然釉



「手付片口鉢」と「ぐい呑み」(5点)

この「茶入金継ぎ木の葉天目」は、専修部でやっていた「木の葉天目」を私なりに穴窯の「焼き締め」で出せないかやってみたものです。道具土で土台を作り「木の葉」をその間に入れ上下に出るようにしたのですが、窯出しの時にうまく葉が残っていません。ちょっと傷がついたので「金継ぎ」をしました。



この席は、友の会のご好意により、追悼スペースも頂て有難うございます。
島本登俊は、2022年10月20日に膵臓性肺炎で亡くなりました。生前 お世話になり、ありがとうございました。七くなる直前まで、自分の作品も頼むと気がかけていました。入選作等 ファイルにまとめていますので、ご覧下さい。
お譲り致しますので、次男 島本拓の携帯電話まで連絡 頂けるようお願い致します。
TEL 090-8512-2293
〒227-0962 横浜市長野区長野1-9-2-514
島本拓

ここからは、今年の「第43回作品展」の紹介になります。まずは、島本登俊さんの「遺作展」です。

- 2005年 第41回「神奈川県美術展」入選
- 2007年 第37回「全陶展」入選
- 2008年 第38回「全陶展」入選
「全陶展神奈川支部展」奨励賞
第7回「益子陶芸展」入選
- 2009年 第45回「神奈川県美術展」入選
第39回「全陶展」入選
- 2011年 第41回「全陶展」入選
- 2012年 第42回「全陶展」入選
- 2013年 第43回「全陶展」入選

作品はどれも薄く軽く手捻りで作られていて、緻密な曲線が見事。さすがに入選するだけの技量だと感心しました。

陶陶さん

第 106 号

あかほし



第 43 回作品展 特設コーナー「マグカップ」

特設コーナーには 10 名の方が 参加されました。



鈴木貴久



井上 明
OP 釉



逢阪博樹
赤土+透明釉



深川貴子
信楽土+鉄赤



吉川 勝



鍋島弘義
(笛付)



吉村希世子
練り込み 透明釉



本橋昭彦
信楽土
酸化青磁釉



川島幸子



松崎紀一
赤津+赤土

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 184 号

(令和 5 年 3 月 6 日発行)

発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男

【編集後記】

・今回、遺作を展示した島本さんは以前「窯場見学会」でよくお会いしていました。今回展示の作品に直接触れその技量のすごさに驚かされ、「もっと、お話を聞いておけば良かった」と、悔やまれました。

・昨年に続き「県展」入賞した鈴木貴久さんの作品もコロナで外に出なくなり時間が出来た中で課題を見つけユックリ作品と向き合う姿に刺激を受けました。

・この「友の会」には、本当に、すごい方がたくさんいらつしやると、改めて思いました。

・今回の役員会で議題になりましたが、この会を存続させるには、会員みんなが出来る範囲の事を少しずつ協力するしかないのではないかと思います。

・「趣味の会」ですので知恵を出し合って楽しい会にしていきたいです。

・四月の役員会は大事な会議になります。皆様、ぜひご出席お願いいたします。

鍋島弘義